

二年学年だより

No. 6

9月号

令和6年9月発行

204HR

“Seize the day.”

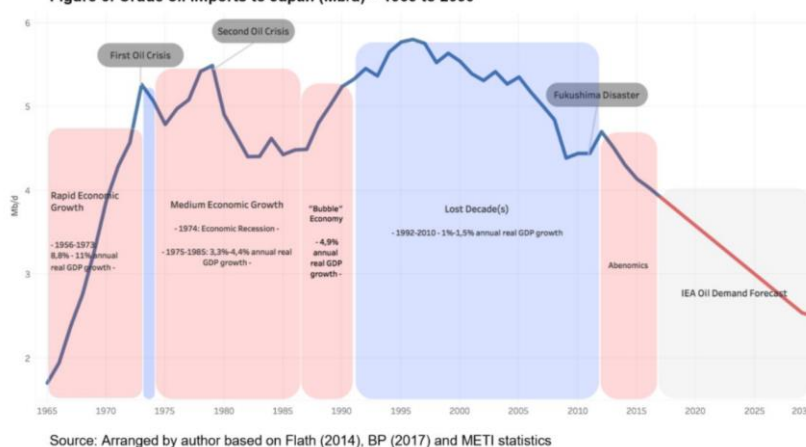
私は校歌の「明日に向かい今を生きる」という一節が好きだ。初任者の際に教わった“Seize the day. (今を生きる)”という言葉大切に生きてきたため、5か月前に本校に赴任し初めて校歌を聴いた時は心が躍った。

ところで、校歌を胸に「今を生きる」中で、私が一番力を入れているのが英語ディベートである。日本には「沈黙は金」という言葉があるが、ディベートにおいて沈黙は敗北を意味する。そのため、立論3分、質疑応答2分等、細かく刻まれる時間を有効に活用することが求められる。また、愛媛県の高校生の多くが毎年参加している英語ディベート大会では、根拠に基づいて自分たちの考えを主張する形式が採択されており、特定の事柄について現行の政策について調べたり、それらをもとに今後の動向を推測したりする力が不可欠となる。この種のディベートにおいては、どれほど流暢な英語で時間いっぱい話しても根拠に基づかない私見であれば無言に等しいと判断されるため、準備にかかる時間は想像をはるかに上回る。今年で19回目を迎える「全国高校生英語ディベート大会」の論題は“*That the Japanese government should abolish all nuclear power plants in Japan.*”「日本政府は、原子力発電所を全て廃止すべきである。是か非か。」である。詳しくは全国英語ディベート連盟 (HENDA) のホームページを参照していただきたい。過去の大会における論題は「首都機能を移転すべきである」や、「ベーシックインカムを導入すべきである」等で、日本政府が行う政策に関するものが多いように思われる。膨大な量のデータに目を通し、その中から自分たちの主張を裏付ける根拠となり得るものを探す作業が続くのだが、これは単にディベートの準備になるだけでなく、大学入試や社会に出てから生きていく上で必要な力を身に付ける機会にもなると捉えている。一例を挙げる。これ（下図）はオックスフォード大学が2018年2月に発表した論文“A Review of the Evolution of the Japanese Oil Industry, Oil Policy and its Relationship with Middle East.”の10ページに掲載されたもので、中東諸国から日本に輸入される石油の量を示したものである。論文では図の前後に説明文も掲載されているため、論文を検索し英文にも目を通してもらいたい。ちなみに、この図によると、2011年の福島第一原発事故後に石油の輸入量は一度増えたが、その後減少し続けており、今後も増加する見込みはないことが示されている。

原発に代わる電力源として火力発電に移行すると仮定した場合、石油や石炭等の化石燃料を輸入に頼らざるを得ない日本にとって現状は厳しい。原発の稼働を止めるかどうかという問題に加えて、日本は多くの問題を抱えている。皆さんは、それらの問題を、どの程度自分のこととして捉えているだろうか。「明日に向かい今を生きる」中で、どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るかということ、皆さんと共に考えていきたい。

(204HR担任)

Figure 6: Crude oil imports to Japan (Mb/d) – 1965 to 2030



Source: Arranged by author based on Flath (2014), BP (2017) and METI statistics

『死んで花実が咲くものか』

生粋のテレビっ子である私は、休みの日にはずっとテレビにかじりつき、今のドラマはもちろんのこと、昔のドラマや韓流ドラマ、アニメを一挙見するのを楽しみに過ごしている。現在はまっているドラマの一つに「わたし、定時で帰ります」がある。アマゾンプライムをザッピングしてふと見始めたものだ。2019年にドラマ化されたが、当時は見ていなかった。“残業ゼロ！ 定時で帰る！”がモットーのヒロイン（吉高百理子）が曲者ぞろいのブラック上司や同僚たちの間で奮闘しながら、毎日小さな奇跡を起こし、現代社会が抱える様々な問題を考え直すきっかけを与えてくれる物語となっている。そのヒロインが言うセリフが「死んで花実が咲くものか」である。「生きていればこそ、よい時も巡ってこよう」という例えらしい。高校生の皆さんにはピンと来ないかもしれないが、人生100年の時代、いいこともあれば、そうでないこともある。うまくいかなかったときは、気持ちが沈み、投げやりになることもある。でも、そればかりではないはずである。皆さんには小さないいことや嬉しいことにできるだけ目を向けて、元気を出して頑張ってもらいたいと思う。これからの未来に大いに期待をし、応援をしてくれている中央高校の先生たちが身近にいることを忘れないで！

(204HR副担任)